豊田市長　太田　稔彦　様

益富地域会議　提言書

益富地域会議委員

会　長	橋本	卓美					
副会長	山田	武志					
委　員	岩下	晟也	梅村	哲平	大石	茂則	桂田　章
	加納	栄寿	岸和田	紀美代	小松	幸司	櫻井　裕子
	柴田	栄作	鈴木	昭雄	鈴木	勲	鈴木　雅子
	中山	修	信川	浩二	森本	泰崇	

令和８年１０月２１日

益富地区における
地域課題解決に向けた豊田市への提言

益富地区は、豊かな自然環境、長い歴史や文化を持つ地区と約 40 年の新しい団地等様々な背景と顔を持つ地域です。一方で少子化と新しい団地に特徴的な急激な高齢化が進み、地域活動の担い手不足や、地方からの転入者が多いことから、地域内での交流も希薄なものになってきています。

こうした状況を改善すべく、令和 8 年度益富地域会議では、取り組むべき課題について協議を重ねてきました。

その結果、子どもや子育て世代、現役を退いた高齢者、地域活動団体、自治区など、あらゆる人々に関わる重要なテーマである「交流・つながり」が、誰もが安心して暮らし続けられる益富地区をつくるための基盤となるという認識を共有しました。

つきましては、益富地区における「交流・つながり」の確立に向け、地域の主体的な取り組みを後押しし、無理なく続けられる仕組み作りにつなげるため、以下のとおり提言します。

益富地域会議　会長　橋本　卓美

益富地域の「交流・つながり」に関する提言書

１　現　状

益富地区では、自治区、益富交流館、サロン等の各種活動団体により住民の交流や地域活動が行われています。一方で、地域会議での議論において、主に以下の３点が課題として挙げられました。

① 多世代や自治区を超えた交流が不足している
② 地域活動や魅力に関する情報が十分に共有されていない
③ 地域人材や地域資源が十分に活用されていない

特に、子どもと高齢者、子育て世代と地域団体、自治区同士の交流を強化する様な仕組みがほとんど無い現状にあります。

２　問題点

（１）自治区、交流館、各種活動団体等による取組は実施されているものの、それぞれが個別に行われることが多く、世代や地域を超えた交流へ発展させる仕組みや連携体制が十分に整備されていない。そのため、継続的な交流や日常的なつながりが生まれにくい。

（２）地域には多様な活動が存在するものの、活動内容や参加方法、地域の魅力等に関する情報が十分に周知されていない。また、情報取得手段の多様化に対応した発信が十分ではなく、必要な情報が幅広い世代に届きにくい。

（３）地域の魅力、活動や人材、個人の技術（技能・知識）等を発信する仕組みが不十分。そのため、地域内外に益富地区の魅力が伝わりにくい。

３　目指す姿

地域の様々な活動に、子どもから高齢者まで、あらゆる世代や自治区を超え気軽に参加でき、交流・つながりの意義や大切さを認識している住民が増えるような場を創出したり情報を発信し、互いに支え合うことができる益富地区を目指します。

具体的には、身近な場所で多世代が交流できる機会（場）があり、地域内の情報が、簡単に、分かりやすく届き、活動したい人と参加したい人をつなぐ仕組みが整っている事です。情報発信については、まず仕組みや運営体制等のベースを整え、その上で子どもたちが地域の魅力を自ら発信し、無理なく継続的に関わることができる形を目指します。こうした活動を通じて、地域への愛着と誇りを育み、将来の担い手づくりにつなげます。

４　解決策

現状及び問題点を踏まえ、益富地域会議では以下のことを提言します。

つきましては、豊田市においては、地域の主体的な取組への支援、関係団体との調整、情報発信及び仕組みづくりへの協力をお願いします。

（１）多世代が交流できる場と機会の創出

継続的かつ効率的に交流機会を増やすため既存事業も活用するとともに、子ども、若者や高齢者、子育て世代、地域の活動団体が関わることができる交流の機会を創出する。（例：寺子屋形式の学びの場、工作を活用した体験活動等、既存施設や地域行事を活用した取組のさらなる充実に向けた支援）

（２）地域の活動・魅力を認識する情報発信の強化

地域のイベント情報、サロンや自主グループの活動、地域で活躍する人たち等、益富地区の魅力を分かりやすく発信する仕組みを整える。（例：ホームページや動画に加え、SNS や地域情報アプリ等を活用した取組への支援）

（３）地域の知識・好奇心を広く発掘

これまで様々な理由で、各種イベント・活動に参加できなかった人たちや、人生経験の中で培った技能や知識を活かしたサポート体制の整備に加え、趣味や特技、地域活動経験等を活かせる仕組みを整える。（例：特技や趣味を「伝えたい人」と「体験したい人」をつなぐ交流マッチング事業）